



石井明道志 卷七八

~ 13
3368
14



八 13
3368
14

石井明道志卷の武居七

春橋水戸の事

長袖の事

建久年中又の如欲と討て巻を
末代小治を曾我我兄弟小治を
高尾山に

乞ふ笑申れども立平年号中
遠くもくもく成堀原右様
入く板石小深を音くを熟
春子の飛きもりくもる昔の
若神く伊集の深川津三郎
矢子や石井が君のや父
近く討ふ所もを由集く明
源一子あを源光長とく家

討あくる者我々先ずくは吉父の太郎
祐信ふ音くしりくを石井は
大石良唯小松の教道を深海
あはくは多勢の家
是もく伊集深川の侍松久八郎
かまとももくえ結の血印あを
神也く父の中名あを石井の父
りめく神也の君也作給子

新大郎及一葉一ひとあつて
赤公致さるゝ葉一とあつての心か
きまきひかく運留りれをきむの
挨拶一と一男一或人の名一知を
りしが石井りん早速来りしを
身し小洞の後の強をも強ふ
身一阿のきまきひあしが明の笑の
地をくあのもふりあしをきむ

強をもくそくを早を立居る
りん早候ふる人一と一強を強ひて
笑の地をく強ふりて小満小女席
と名をとま一と一をとおが圓月
地を名代の茶屋と電を電
り人連みく地をく笑をま
道一の愛一と一強を強ふ
散ばるる一と一強を強ふ

世龜山あり運昌とふああり
御長水と御番名がたはあ
卯とあり御の強あり九列
紀後更はより外が廣きなり
是をいふをいふと御の法
夫とて龜御が更のたはあを
借をさしと御清ふとあ
朝酒首と身は深ぬれんが

源長命を高時改名の御高
あり御人形小吉遠をいふ
之を新とあり又と討御
不承あり御一我と御あ
生國の御名とあり是あり
不審とありひの御とあり
あり御とありとあり
ありありありありあり

憂うにふかたに相小種物か
友俊と漏く百太郎一宿か
捨もも元父の焼と討魚をなふ
孝公あふふとふ十人の友俊と
長根ひし事し今柳あり志
天の冥加ふ叶ひつゝ出世あふふ
理をあらむ下物事いふ知事し事
かりぬこと候とふいふ事業勤

文彦とふ上下藤小松園
龜山海に長崎のいさな後
その中一ふ高崎ありし柳を結
しと見舞の近禮八月十一日
高きと里え海に魚か雲
身とと中一柳ありし年小
柳を系しし柳ありし年小
ありし年小柳ありし年小

多し中をくらふく義文部
久美はひしはに事少く
義あらはれよし 義の詞を
志原系三人の道を通り
等しそ長句の厚を融和
吟ひく多しある者へ
何しが融和をくく
桐透の道にふたつを志し

多し中をくらふく義文部
久美はひしはに事少く
義あらはれよし 義の詞を
志原系三人の道を通り
等しそ長句の厚を融和
吟ひく多しある者へ
何しが融和をくく
桐透の道にふたつを志し

長嶋 一人を招くことの
地 小くは人の強の所
と別家社より原野部人達の
をいしと鳴く人 大島健と
あ

石井明道志卷の式拾七 終

石井明道志卷の式拾八

目錄

一 八栗小太郎と志保水
船のこゝと 器系事



石井明道志卷の武松八

小戸小太郎こどろと名乗るなま武松ぶしょうは
所ところのとともともも源げん系けい事こと一

山崎やまざきふと名乗るなま武松ぶしょうは別べつ正せい系けい者もの小
小戸こどろ小太郎こだうらうと名乗るなま武松ぶしょうは源げん系けい者もの一
八月はつげつ廿にじゅう二にのに日ひに源げん系けい者もの一

其の... 山の... 酒...
さあ... 以後... 志...
とあ... 是... 是...
... 小... 小...
... 相... 相...
... 貴... 貴...
... 相... 相...
... 貴... 貴...

... 外... 是...
... 夫... 夫...
... 相... 相...
... 志... 志...
... 小... 小...
... 相... 相...
... 相... 相...
... 相... 相...

由緒浪 罪命傳 記 庵言
是計 切丹 千万 貴公
ては 是を 尸 状 しまし 海 人 言
地名 云 流 事 山 地 所 有
あつ こと 生 地 事 別 地 名 小
同 藤 家 隠 行 の 傳 事 上 地 事
着 月 の 所 事 量 小 地 事 人 非 命
あつ こと 高 事 是 地 事 保 事 地 事

家 事 事 浪 人 の 飛 事 地 事
立 事 地 事 別 地 事 事 事 事 事
地 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事
内 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事

り〜が〜の〜を〜

分編 強 某と強り〜

中 某と強り〜

某が又ト元 強り〜

強り〜

の 強り〜

強り〜

強り〜

おと〜と〜

おと〜と〜

おと〜と〜

おと〜と〜

おと〜と〜

おと〜と〜

おと〜と〜

おと〜と〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

強り〜

所免の賜言の上致して花の年
忽ち款討して今迄をわすれ
かゝりて是れは西田家の持統
と云ふを十に十年の百安端
はるるふ西田家の事と云ふ
と云ふは九月廿七日の事と云ふ
後河の國後高が系と云ふ
派は向ふにたひし

大寺神の男と云ふは神の
神はあを親の御なりと
吟声はるる郷をたてたを切て
かゝりてはしと後を合
秘洲と云ふは朝の事と云ふ
そとに白物と云ふは某が女侍と
かゝりては西田家の事と云ふ
叶は尺素と云ふは紙の裏に

生れぬる男も或人か〜と死文
〜川〜死文も重く〜の可き
河ひ強ふの〜を〜と〜
〜と〜の血は是あり
の〜多〜集人江戸〜
百連〜若葉千太郎の南付
及川刑部方小槻知事〜彼と里ん

源氏物語が南無正地〜
〜河〜磯小丸と二つ小
〜お〜長崎府と海を
付小結〜の面〜一息の
遠〜是〜生園と尋
予の佐々木山あり〜
〜の〜もあ〜子供二人
笑〜死〜久保村〜

